インパルスには成長するために必要なすべてが揃っています

桑田 理介

WR

パナソニック株式会社
エレクトリックワークス社
マーケティング本部勤務

Xリーグの強豪、パナソニックインパルスはどんなチームなのか。選手やスタッフが学生時代に抱いていた印象と、一員になってから体験した実際の姿と、インパルスであることの意義を語る。2021年シーズン終盤に頭角を現し、パス攻撃の主要ターゲットの一人に成長した桑田理介（関西大学）は、選手としてさらに成長を目指す者にとって、インパルスは最高の環境だという。

――フットボールを始めた理由を教えて下さい。

桑田　幼少の頃から野球をしていましたが、父と兄が大学でフットボールをしていたので、高校生の頃から興味を持っていました。受験勉強をしている時は、大学で野球を続けるか、フットボールを始めるか迷いもありましたが、フットボールを始めるなら最後のチャンスだと思い、大学でフットボールをすることにしました。

――就職や将来のことを考え始めたのはいつですか？

桑田　大学3年時の秋です。社会人でフットボールを続けることに対してはあまり積極的には考えていませんでした。ただ、フットボールを続けなければ土日が暇になってしまうので、多分どこかのチームで続けるんだろうなと、ぼんやりと思っていました。職種についても特に強い希望はありませんでした。正直に言えばどんな職種もイメージできていなかったので、何かにこだわってエントリーしたという訳ではありませんでした。

――インパルスとの出会いは？

桑田　インパルスでプレーする関西大のOBの方々から説明をお聞きしたのがきっかけでした。就職活動を進めていく中で、社会人でもフットボールを続けようという考えが固まってきていたので、選択肢の一つとして興味を持ちました。

実はこの年の3月に足首を骨折してしまいリハビリの最中でした。私としては学生最後のシーズンに向けて1日も早く復帰をしたいと考えていたこと、可能な限り最後のシーズンに集中したいという思いもあって、パナソニックからの内定を受けた時点で、他の企業への就職活動を全部やめました。

――入部前はインパルスに対してあまり強い思い入れはなかったようですが、実際に一員となってみて変わったところは？

桑田　今はインパルスの一員になれてよかったと思うことしかありません。特にフットボール選手として成長するためのすべてが揃っている環境は本当に恵まれていると思います。

インパルスの先輩方はフィジカル・トレーニングや体の使い方の意識が高い方がたくさんいます。プレーのレベルもとても高いので、自分も必死に食らいついていかないと振り落とされてしまうという意識を持って取り組むことができたので、この1年間の成長スピードは自分でも早かったと実感することができています。トレーニングに関しても、充実した専用施設が会社の敷地内にあって、ストレングス・コーチやトレーナーがほぼ常駐してくれているので、練習日以外に時間を作ってトレーニングする時にもアドバイスをいただけます。また、職場の方々もインパルスでプレーしていることを応援してくださっています。練習やトレーニングに行くために定時であがる時にも、快く送り出してくれます。

入社のきっかけはぼんやりとしていましたが、今は最高の環境に身を置くことができて本当に良かったと思っています。

――インパルスに入って先輩から影響を受けたことはありますか？

桑田　目的に対して自分なり考えて取り組む姿勢です。インパルスには様々な年代の選手がプレーしています。一回り上の世代の先輩も現役でプレーしています。それだけ年齢が違えば、ベスト・コンディションの作り方は違ってきて当然です。トレーニングについても、体の使い方を重視して取り組んでいる人もいれば、自分が決めた回数や重量にこだわって取り組んでいる人、体のケアにもすごく気を使っている人もいます。私は自分の状況に応じて、先輩方のいいところを見習いながら、今の自分に必要なことは何かを考えて取り組んでいます。

学生は一律に決められた数値をクリアすることをルールにしているチームも多いと思いますが、いつのまにか基準をクリアすることが目的になってしまいがちだということは、私も学生時代に経験したことがあります。

インパルスは自分の意志で成長したいという意欲を持っている選手ばかりです。成長するという目的さえはっきりしていれば、そこにたどり着く方法は自分に合ったものが選択できるのが、私にはとても合っています。目的を達成するための方法は一つではないという考え方は、仕事にも役立てられると思っています。

――昨シーズンの自分自身の出来に対する評価を教えて下さい。

桑田　シーズン序盤はなかなか出場機会を得られずフラストレーションが溜まっていました。メンタルによくない状態の時期もありましたが、練習時に元気がなかった時に先輩から『落ち込んでいても何も変わらないぞ』と励ましていただき、諦めずに頑張ることができました。セミファイナルから出場機会も増えて、ライスボウルでも自分なりにプレーできたことには満足しています。ただ、ライスボウルは負けてしまったので、今考えるともっとこう出来たのではないかというのがあります。

――今季の目標は？

桑田　レシーバーはまずスピードがないと始まらないと考え、スピードアップに取り組んでいます。CFLのコンバインにも挑戦しました。合格することはできませんでしたが、40ヤード走の記録はトレーニングを始めてから1ヶ月で0・2秒近く縮めることができました。今の目標は4秒5を切ることです。

――海外挑戦も視野に入っているのですか？

桑田　はい。日本で最高峰のライスボウルを経験して、高いレベルでプレーする楽しみを改めて感じ、もっと高いレベルを見てみたいという気持ちになりました。振り返ってみれば、インパルスでプレーすると決めた時も、より高いレベルでプレーしたいという気持ちが強かったのも事実です。

自分自身がもっとレベルアップをして、たくさん出場してライスボウルに勝つ。仕事も2年目になり忙しくなっていますが、やるべきことの優先順位を決め、時間をうまく使ってフットボール選手としてレベルアップする時間を捻出していきたいと思っています。

Risuke Kuwata

くわた・りすけ。1998年12月30日生。小学3年生から野球に取り組み、仁川学院高校時代は主将で投手だった。南山大学でプレーしていた父と、追手門学院大学でプレーしていた兄の影響で、関西大学でフットボールを始める。2年時にレシーバーとして頭角を現し、3、4年時はエースとして活躍。インパルス初年度の昨年は、セミファイナルのIBM戦で9捕球95ヤード1TD、ライスボウルで5捕球62ヤードの活躍を演じた。

IMPULSE
パナソニック インパルス　検索
panasonic.co.jp/ew/go-go-impulse/
Facebook www.facebook.com/Panasonic.Impulse
Twitter @gogo_impulse